秋田谷和夏さん、玉澤 愛さん、小島瑶平君

（車力小6年）　（柏中1年）　（柏中3年）

「第60回社会を明るくする運動」作文コンテストで入賞

秋田谷　和夏さん

玉澤　愛さん

小島　瑶平君

法務省主唱の「社会を明るくする運動」作文コンテスト（県内小中学生535点応募）で、秋田谷和夏さん（車力小6年）が青森県協力雇用主会連盟会長賞、玉澤愛さん（柏中1年）が青森県更生保護協会理事長賞、小島瑶平君（柏中3年）があすなろ理事長賞をそれぞれ受賞しました。

秋田谷さんの作文は『ちょっとの勇気と笑顔』という題名で、入学して間もない頃、上級生から一緒に遊ぼうと声をかけてもらった体験を通して、勇気と思いやりが人の心を明るくすることを感じ、ほんのちょっとの勇気を持つことを呼びかける内容。

玉澤さんは『思いやり』という題名で、自分を犠牲にして相手のために行動するのは決して簡単ではないが、「思いやり」とは行動や言葉で表すことが大切と述べました。

また、小島君は自身が取り組んだ「あいさつ運動」の経験を紹介。学校の雰囲気が良くなったあいさつ運動が社会に広がってほしいと願う内容の『自分との闘い』を書き表しました。

3人は1月12日、県観光物産館アスパムで行われた表彰式に出席し、今回の受賞を喜んでいました。

津軽凧作りに挑戦

親子凧作り教室

1）完成した凧を手に記念写真
2）木炭と墨を使って下絵を描いています
3）波のぼかしがポイント

冬の風物詩「津軽凧」を子どもたちに伝承しようと2月20日、松の館で「親子凧作り教室」が行われ、市内の小学生親子26人が凧作りに挑戦しました。

この日は柏凧の会（澤田武美会長）の会員5人が講師となり作業開始。縦96cm、横66cmの四枚凧用の和紙に今年の干支を題材にした「波うさぎ」を墨で描き、ヒバの骨組みに糊で貼り付け、赤と青の顔料で彩色。「ブンブ」と呼ばれる仕掛けと糸を取り付けて完成させました。

初めて凧作りに挑戦した高橋伯君（瑞穂小1年）は「色を塗るところが楽しかった。凧は飛ばしたり家に飾ったりしたい」と話していました。

発行／つがる市役所総務部総務課　〒038-3192　青森県つがる市木造若緑61番地1　電話：0173-42-2111　FAX：0173-42-3069
URL：http://www.city.tsugaru.aomori.jp/　印刷／有限会社　光陽印刷